

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00527

研究課題名（和文）「翻訳」「注釈」の創作性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究

研究課題名（英文）An interdisciplinary and theoretical study on translation, footnote, and creativity

研究代表者

高西 成介（Takanishi, Seisuke）

高知県立大学・文化学部・教授

研究者番号：50316147

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：英米文学と、日本文学や中国文学における「注釈」「翻訳」に対する視線は、明らかに異なる。本研究では、まずその差異を確認するとともに、共同討議を経て、「注釈」は元テキストを「正しく」読むためだけにあるのではなく、時に元テキストと不協和音をもたらし、時に元テキストを揺り動かし「新たな読み」を呼び起こす点で、普遍的な働きをすることを明らかにした。また、こうした「注釈」行為は、情報の取捨選択をたえず迫られる「翻訳」行為とも通ずる側面があり、「新たな読み」を呼び起こすものであることを、特に中国文学の日本語訳、英語訳との比較を通じて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「翻訳」や「注釈」をめぐる研究は、これまで各国文学研究の中で多く蓄積されてきた。こうした研究成果をふまえて、東洋文学者と西洋文学者の対話により、より普遍的に「注釈」「翻訳」行為と「フィクション生成」の関係を考えているところから、本研究の独自性と意義がある。特に、従来あまり注目されてこなかった西洋文学における「注釈」を改めて検討し、「注釈」の持つ新たな読みを引き起こすという普遍的な働きを明らかにできたことは有意義であった。

研究成果の概要（英文）：The perspectives on annotation and translation in English and American literature differ from those in Japanese and Chinese literature. The present study first confirms this difference and, through collaborative research, reveals that annotation has a broader function than just facilitating the accurate reading of the original text; it sometimes introduces dissonance with the original text or even unsettles it by prompting new readings. Furthermore, such annotation practices share similarities with translation activities, in that the constant selection and omission of information in translation also evokes new readings of the text, as our comparative study of Japanese and English translations of Chinese literature shows.

研究分野：中国古典文学

キーワード：注釈 翻訳 聊斎志異 三島由紀夫 エマ・ウィラード

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで「翻訳」「注釈」は、元となる文学作品をよりよく理解するための補助的な道具としてのみ、存在価値を認められてきた。しかし、ジェラルド・ジュネット『スユークエストから書物へ』でジュネットは「パラテキスト」という概念を提唱し、読者は文章そのものを純粋に読むという行為は不可能であり、その周縁である「注釈」や「翻訳」などを参照しながらでしか読解ができないことを明らかにした。また、研究代表者及び研究分担者による共同研究「周縁テキスト(注釈・翻訳)の自立性をめぐる歴史的・理論的研究」(平成27年度～29年度、基盤研究(C))の結果、「注釈」及び「翻訳」そのものもまた、解釈したり分析したりすることが可能な自立したテキストであり、その行為そのものが「創造的営為=創作」と考えられることが明らかになってきた。本研究課題は、こうした研究成果の基礎の上に構想され、新たに日本文学研究者を加え、「創造的営為=創作」としての「翻訳」「注釈」が、文学とりわけ「フィクション」の生成にどのように関わっていくのかに注目し、分野を異にする研究者が共同で、領域横断的にその関係性を問い直すことを目指した。

2. 研究の目的

本研究では、中国文学、日本文学とアメリカ文学の「フィクション」生成における「翻訳」「注釈」行為の果たした役割を明らかにするとともに、地域性を越えた普遍的な「翻訳」「注釈」と「フィクション」成立との関係性を、共同研究を通じて明らかにすることを最大の目的とした。また個別地域に閉じた形で行われる文学研究の抱える閉塞感を打ち破ることを狙い、日・中・米文学研究者が共通の土俵の中で議論し、新たな文学研究のあり方を考えることも、目的の一つであった。さらに、こうした研究成果を積極的に社会に還元することも、本研究の大きな目的として設定した。

3. 研究の方法

本研究を推進するに当たっては、次の三つの大きな柱を立てた。

(1) 中国文学、日本文学、英米文学における「フィクション」生成と「翻訳」との関係性をめぐる研究

(2) 中国文学、日本文学、英米文学における「フィクション」生成と、「注釈」との関係性をめぐる研究

(3) 「フィクション」生成と「翻訳」「注釈」との関係性をめぐる普遍的研究

その上で、研究代表者は中国文学研究の立場から、二人の研究分担者は英米文学研究及び日本近現代文学研究の立場から、上記の三つの柱に対して個別アプローチを試みつつ、研究を進めることとした。

その上で、定期的な研究会を実施し、各人の研究成果を持ち寄り相互討議を行いながら、研究成果を有機的に結合することを目指した。またその際には、個別領域の研究成果が、普遍的な観点で捉え直され、領域を横断し地域を越える新たな文学研究のあり方へと繋げる議論を意識して進めることとした。

4. 研究成果

英米文学と、日本文学や中国文学における「注釈」「翻訳」に対する視線は、明らかに異なる。本研究では、まずその差異を確認するとともに、共同討議を経て、「注釈」は元テキストを「正しく」読むためだけにあるのではなく、時に元テキストと不協和音をもたらし、時に元テキストを揺り動かし「新たな読み」を呼び起こす点で、普遍的働きをすることを明らかにした。また、こうした「注釈」行為は、情報の取捨選択をたえず迫られる「翻訳」行為とも通ずる側面があり、「新たな読み」を呼び起こすものであることを、特に中国文学の日本語訳、英語訳との比較を通じて明らかにした。

ただ、コロナ下にあって、思うように共同での討議が行えなかったこともあり、当初目指していた普遍的な観点から「注釈」「翻訳」を捉え直し、地域を越える新たな文学研究のあり方に繋げるまでたどり着くことはできなかった。しかし、各国文学研究者が集い、共同討議することの有効性を確認できたことは一つの成果であろう。また、とりわけ「注釈」に関して、本文との関係性を注目することによって新たな読みを開く可能性も見えてきた。こうした点については今後の研究課題として、引き続き共同研究を進めていく予定である。

なお、具体的な研究成果は以下の通りである。

(1) 中国文学、日本文学、英米文学における「フィクション」生成と「翻訳」との関係性をめぐる研究

明治から昭和初期にかけての中国の文言小説に関する翻訳に関する資料の収集と整理を行い、近代における日本に於ける中国古小説の受容を歴史的な視点から検討を行った。また、文言小説の中でとりわけ重要な作品である『聊斎志異』に関しては、日本語訳の整理に加えて、英語訳に関しても資料の収集を進め、整理を行った。

近代日本における『聊斎志異』の翻訳史において、重要な著作に『支那奇談集』がある。その翻訳と注釈の分析を行い、訓読訳から言文一致訳への変遷の中で、翻訳・注釈がどのように扱われていたのかを明らかにした。また、『支那奇談集』出版に、田山花袋・柳田国男『近世奇談全集』の存在が大きな影響を及ぼした可能性があることを明らかにした。

柴田天馬訳『聊斎志異』における翻訳の特徴を、主として「画皮」を題材に他の訳本と比較しつつ検討し、柴田訳の持つ独特のエロティシズムについて検討を行った。

『太平伝記』宝部に関して、翻訳と注釈を作成し発表した。

ハーマン・メルヴィル『詐欺師』の注釈を試行し、その過程で生まれた問いに関連した研究発表を行った。

ハーマン・メルヴィル『バートルビー』の翻訳、注解を作成した

フランスにおける三島由紀夫文学の翻訳と作品理解について、フランス国立図書館での作品要約と出版社の装丁の変化から、分析をおこなった。

(2) 中国文学、日本文学、英米文学における「フィクション」生成と「注釈」との関係性をめぐる研究

日本近代文学における注釈をめぐる諸問題について、改めて検討を行った。

大伴旅人「梅花歌序」を、『文選』李善注から改めて読み直す試みを行い、「梅花歌序」の背景には地方から都を思う心情と陶淵明の深い影響があることを明らかにした。

19世紀アメリカのエマ・ウィラード『アメリカ合衆国史』(1828)における歴史の視覚化と記憶術との関係、および脚注における「言い伝え」の使用の意義について考察した。また、本文と脚注の不協和を通じて、史的客観性を掲げる当時の(男性中心の)アカデミズムとより民衆一般の歴史感覚に近い「言い伝え」に史料価値を見出す女性歴史家ウィラードとの対立を見出した。

三島由紀夫『愛の渴き』(1950年)のヒロイン・悦子「未亡人」表象について、戦後の文化的背景から注釈を施し、当時の知識をフィクション化する過程を分析・発表した。

『金閣寺』の原稿について調査し、翻刻をおこなった。また、その作業を通じて、フロイトの翻訳書からの影響が見られることが分かってきた。知識の解説を一種の注釈として捉え、そこから創作との関連性について考えることが必要であることを確認した。

日本近代文学の領域において、注釈に関する明治期からの歴史的展開についての資料収集・分析を行う歴史的研究と、三島由紀夫作品を中心とした近代文学作品へ注釈を施すことの実践的研究を行った。近代文学においても形式は近代以前の注釈形式を用いる一方で、内容面では諸外国語の読みと意味を日本語に翻訳して置き換えることが増加していく。また昭和期以降は小説作品の増加、文学ジャンルの発達とともに、典拠の指摘とともにジャンルに関する注釈が増加したことを明らかにした。

(3) 「フィクション」生成と「翻訳」「注釈」との関係性をめぐる普遍的研究

『聊斎志異』の初期の英訳である Herbert Allen Giles の “Strange Stories from a Chinese Studio” に注目し、近代における日本語の翻訳とも関連付けながら、共同で分析を試みた。西洋の読者にとって、『聊斎志異』の物語がエキゾチックな印象をもたらすものであること、中国の文化的特色について、詳細な注釈が施されており、事柄によっては訳者が知識をひけらかすが如く饒舌にその文化的背景を語ること、などの特色があることが明らかにした。

『聊斎志異』の中的一篇である「画皮」をめぐる、その描写の身体感覚やエロティシズムに着目し、翻訳や各国語に付された注釈なども参照しつつ、作品の新たな読みの可能性を考察した。

また、最終年度には、それぞれの個別的研究成果の有機的統合をはかり、あわせて得られた研究成果の社会への還元をはかるため、2023年11月に田中智行大阪大学准教授をゲストスピーカーに招き、高知県立大学において公開シンポジウムを開催した。シンポジウムでは、田中智行氏の基調講演に加え、研究代表者と研究分担者それぞれが研究報告を行った。さらに、田中氏を交えてパネルディスカッションを行った。ハイブリッド開催で実施した本シンポジウムには、高知近郊の一般市民に加え、全国各地からの参加があり、好評のうちに終えることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山口善成	4. 巻 11
2. 論文標題 19世紀アメリカ文学の「つなぐ営為」 ネットワーク、境界線、個人主義	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『中・四国アメリカ研究』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口善成	4. 巻 59
2. 論文標題 タヒチのアメリカ人 ヘンリー・アダムズ『アライ・タイマイの回顧録』における少数民族への同一化と郷愁	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『中・四国アメリカ文学研究』	6. 最初と最後の頁 79-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口善成	4. 巻 27
2. 論文標題 共感の倫理 - 19世紀アメリカのユートピアニズムと権威主義	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『中部アメリカ文学』	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口善成	4. 巻 27
2. 論文標題 ニッカボッカーの増殖 19世紀アメリカにおける名声と二次創作的自己形成	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『アメリカ文学評論』	6. 最初と最後の頁 100-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口善成	4. 巻 -
2. 論文標題 Emma Willard's Geographic History	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Bloomsbury History: Theory and Method	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5040/9781350887626.247	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高西成介	4. 巻 72
2. 論文標題 『太平広記』 訳注 (稿) 卷四百一 「宝」部金下 (上)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 高知県立大学紀要文化学部編	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口善成	4. 巻 26
2. 論文標題 「ビデオを返さなければ・・・」 『アメリカン・サイコ』とうわのそらのパーソナリティ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『アメリカ文学評論』	6. 最初と最後の頁 pp.98-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中裕也	4. 巻 66
2. 論文標題 三島由紀夫『愛の渴き』の生成 - 悦子の「幸福」をめぐる -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 「国文学論叢」	6. 最初と最後の頁 pp.139-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高西成介
2. 発表標題 中国怪奇小説集『聊齋志異』の翻訳世界
3. 学会等名 高知県立大学公開シンポジウム「翻訳の悦び、注釈の楽しみーいま改めて、世界文学を読む」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高西成介
2. 発表標題 『聊齋志異』に描かれる身体をめぐる
3. 学会等名 第9回「海域交流と中国古典小説」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 19世紀アメリカ文学の「つなぐ営為」 ネットワーク、境界線、個人主義
3. 学会等名 中・四国アメリカ学会年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 もうひとつの声 テキストとしての注釈
3. 学会等名 高知県立大学公開シンポジウム「翻訳の悦び、注釈の楽しみーいま改めて、世界文学を読む」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 共感の倫理－19世紀アメリカのユートピアニズムと権威主義
3. 学会等名 第39回日本アメリカ文学会中部支部大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中裕也
2. 発表標題 明治文学への注釈と読解－注釈の正しさと読解の力学
3. 学会等名 高知県立大学公開シンポジウム「翻訳の悦び、注釈の楽しみ－いま改めて、世界文学を読む」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高西成介
2. 発表標題 『聊齋志異』 「画皮」小考
3. 学会等名 第247回宋代史談話会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高西成介
2. 発表標題 『聊齋志異』 「画皮」小考
3. 学会等名 第67回中国四国地区中国学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高西成介
2. 発表標題 『聊齋志異』に見える身体とエロス
3. 学会等名 科研費研究会「『翻訳』『注釈』の創作性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 Emma Willard, _History of the United States, or Republic of America_ (1828)における/についての注釈
3. 学会等名 科研費研究会「『翻訳』『注釈』の創作性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 郷愁と友情--ヘンリー・アダムズ『アライ・タイムイの回顧録』試論
3. 学会等名 筑波アメリカ文学会秋季例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 19世紀アメリカの友情論における個人主義と共感
3. 学会等名 第58回片平会夏期研究会プログラム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 タヒチのアメリカ人--ヘンリー・アダムズ『アライ・タイムの回顧録』における少数民族への同一化と郷愁
3. 学会等名 中・四国アメリカ文学会第50回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高西成介
2. 発表標題 『聊齋志異』の翻訳と注釈をめぐって
3. 学会等名 第3回：「翻訳」「注釈」の創造性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究 研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高西成介
2. 発表標題 『聊齋志異』巻一「画皮」をめぐって
3. 学会等名 第4回：「翻訳」「注釈」の創造性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究 研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 ハーマン・メルヴィル『代書人バトルビー』を読む
3. 学会等名 第3回：「翻訳」「注釈」の創造性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 『聊齋志異』の英訳と脚注
3. 学会等名 第4回：「翻訳」「注釈」の創造性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究 研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中裕也
2. 発表標題 フランスにおける三島由紀夫作品の翻訳状況について 装丁の変化と作品要約から分析する
3. 学会等名 第3回：「翻訳」「注釈」の創造性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中裕也
2. 発表標題 日本における『聊齋志異』の翻案・翻訳の通時的分析
3. 学会等名 第4回：「翻訳」「注釈」の創造性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究 研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山口義成
2. 発表標題 『詐欺師』の博愛と個人主義
3. 学会等名 日本アメリカ文学会中部支部11月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高西成介
2. 発表標題 明治期における中国文言小説の受容をめぐる一、二のこと
3. 学会等名 「翻訳」「注釈」の創作性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究」第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 見えない友と生きる時代のためのハーマン・メルヴィル『詐欺師』
3. 学会等名 「翻訳」「注釈」の創作性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究」第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口善成
2. 発表標題 『詐欺師』の翻訳と注釈についての報告
3. 学会等名 「翻訳」「注釈」の創作性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究」第2回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中裕也
2. 発表標題 三島由紀夫の唐詩受容と湘南 - - 「月澹荘綺譚」を中心に - -
3. 学会等名 「翻訳」「注釈」の創作性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究」第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中裕也
2. 発表標題 日本近代文学における「注釈」の問題（注釈研究・実践のためのノート）
3. 学会等名 「翻訳」「注釈」の創造性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究」第2回研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 高西成介ほか21名	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 483
3. 書名 明清文学論集 その楽しさその広がり	

1. 著者名 佐藤秀明編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 鼎書房	5. 総ページ数 146
3. 書名 『三島由紀夫研究』第23巻	

1. 著者名 東原伸明・ローレン・ウォーラー・ヨース・ジョエル・高西成介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 武蔵野書院	5. 総ページ数 354
3. 書名 万葉集の散文学 新元号「令和」の間テキスト性	

1. 著者名 新・アメリカ文学の古典を読む会、亀井 俊介、中垣 恒太郎、水口 陽子、森 有礼、森岡 隆、山口 善成、渡邊 真由美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 288
3. 書名 物語るちから:新しいアメリカの古典を読む	

1. 著者名 岩津航、上田望、粕谷雄一、佐藤文彦、杉山欣也、山口善成、山本卓	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢大学GS教育系	5. 総ページ数 75
3. 書名 新版グローバル時代の文学	

1. 著者名 岩津航、上田望、粕谷雄一、佐藤文彦、山口善成、山本卓	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢大学GS教育系	5. 総ページ数 60
3. 書名 新版グローバル時代の文学 授業用資料	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山口 善成 (Yamaguchi Yoshinari) (60364139)	金沢大学・歴史言語文化学系・教授 (13301)	
研究分担者	田中 裕也 (Tanaka Yuya) (30769138)	高知県立大学・文化学部・准教授 (26401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------